



幸せ実感都市を目指して

下野市長 広瀬 寿雄

Administration 行政

新年、あけましておめでとうございます。市民の皆様には、新たな夢と希望を胸に、良き年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は市制施行10周年という大きな節目を迎え、5月には新庁舎での業務がスタートし、はや半年以上が過ぎました。

合併以来6か所に分散していた職員の集約により、組織間連携や事務効率化、災害対策の向上等に手ごたえを感じております。

こうして新たな年を迎え、職員と一丸となって、下野市のさらなる躍進のため全力で努力してまいります。

昨年を振り返ってみますと、4月発生した熊本地震では震度7を観測し、甚大な被害を及ぼすとともに、未だ余震に怯える不安な日々が続いております。また、9月には記録的に多くの台風が襲来し、11月には関東地方で記録史上最も早い積雪となるなど、気象変化の激しい年でもありました。

本市は、自然災害が少ない土地柄ですが、地震や集中豪雨、竜巻などの災害に対して、日頃から市民の皆様とともに、防災・減災の備えを整え、さらに安全安心なまちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。

国政においては、7月に行われた参議院議員選挙は、選挙権が18歳に引き下げられた初の選挙となりました。

本市では、自治医科大学に期日前投票所を設け、高校生や大学生向けの説明会を開くなど、若い世代の投票を促し、一定

の効果があつたものと考えております。

今後も、幅広い世代で市政を含め政治に関心を持っていただくよう、市政情報の充実や選挙啓発等に努力してまいりたいと考えております。

また、リオ五輪では、本市出身の高藤直寿選手が、柔道60キログ級で見事銅メダルに輝き、下野市民のみならず、国民に熱い感動を与えてくれました。2020年の東京オリンピックでは、ぜひ一番輝くメダルを下野市の子どもたちに見せていただけるよう高藤選手のご活躍を期待しております。

市政におきましては、新たな10年を踏み出すため、「第2次下野市総合計画」を策定し、市の将来像を「ともに築き 未来へつなぐ 幸せ実感都市」といたしました。

今、全国の地方自治体は、国家的課題である人口減少に歯止めをかけ、自治体の活力を維持する「知恵」が求められております。

本市は、自然、交通、居住、医療の各環境の充実に加え、歴史・文化など多様な豊かな地域資源を有し、発展のポテンシャルも高く評価され、東京圏からの移住・定住の受け皿としても、最適の地域と考えております。

私は、これらの地域資源を最大限に活用することにより、住む人の誰もが「幸せ」を感じることで、「人や企業から選ばれる」下野市を目指す施策を力強く展開してまいります。

そのためには、本市のまちの魅力を、さ

らに磨くことが重要と考えております。

そこで、本市の都市づくりを推進していくうえで、ランドデザインとなる「下野市都市計画マスタープラン」を改定し、将来都市像を「快適でうるおいのある環境で新たな人の流れをつくるまちづくり」といたしました。

さらに、都市機能の集積やコンパクトシティ化を進めるため、マスタープランの高度化版ともいえる「立地適正化計画」の策定を行っております。

これらの計画により、JR3駅を中心に都市機能を集積し、コンパクトシティとしての居住性を高めるとともに、北関東自動車道スマートIC整備、新たな産業団地の造成などを進め、東京圏からの定住促進や居住環境の向上などに戦略的に取り組んでまいります。

本格化する人口減少問題に向き合い、本市の総合計画や地方創生総合戦略を着実に推進することにより、東京圏から「新たな人の流れ」をつくり、「人や企業から選ばれるまち」、「人々が幸せを実感できるまち」を目指してまいります。

結びに、市民の皆様にとりまして、本年がより実りのある飛躍の年となりますよう心からご祈念申し上げますとともに、今後とも、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。